

▶執筆 人権教育課（市役所内線 4012）

地域の人権教育をリード — 人権教育推進委員

西脇市を人権文化の花咲く住みよいまちにするために、地域で活躍する方々を皆さんはご存じでしょうか。中でも中心的な存在となっているのが、「西脇市人権教育推進委員」です。

市教育委員会が委嘱する人権教育推進委員は、地域社会の人権教育を積極的に進め、市民の皆さんの人権意識の高揚を図る役割を担っています。市内に8つある地区ごとに、おおむね2人を任命。任期は1年ですが、再任を妨げていません。中には10年近く尽力されている方もいます。これまでに、100人を超える方々が人権が大切にされるまちづくりに貢献されてきました。

委員の活動は、年間を通じて多岐にわたります。例えば、地区内の定例研修会や町別学習会、毎年8月に開催する「人権文化をすすめる市民運動」推進強調月間講演会で、会の企画・運営などに携わっています。特に各地区で行う研修会では、コロナ禍を経て、グループになって参



地域での学習会ではグループワークを通して、積極的に意見交換をしています。

加者同士で意見交換をする機会が戻ってきました。委員はグループトークが円滑に進むよう進行役を務めたり、意見をまとめたりし、参加者の理解促進に努めています。

人権を巡る状況は時代とともに大きく変化し、性の多様性や無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）など、新たな課題も認識されるようになりました。委員は各地区での活動に生かすため、主体的に多様な研修会や講演会に参加し、自己研さんにも励んでいます。

今後も西脇市は、人権教育推進委員の方々の協力の下、人権が尊重されるまちづくりを進めます。皆さんも、人権講演会や町別学習会に参加し、人権について考えてみませんか。



渡し舟を保管している舟小屋



畑瀬の渡し跡（畑瀬橋全景）



黒田庄地区の中央には加古川が流れ、橋が架けられる前には、庶民の移動手段として渡し舟が利用されていました。中でも津万井集落には、畑瀬橋のすぐ南に「畑瀬の渡し」がありました。渡し舟は船頭が竹竿を繰り、増水時を除いて、年中運航していました。明治44（1911）年の畑瀬橋架橋によっていったん廃止されましたが、その後も畑瀬橋はたびたび洪水によって落橋し、そのたび「渡し」が復活したようです。昭和10（1935）年に鉄筋コンクリートの橋が架けられた以降は、渡しは使われなくなりました。畑瀬橋東側にある津万井の「舟小屋」には、実際に利用されていた渡し舟や解説パネルが展示されています。

ふるさとの魅力再発見 — にしわき歴史探訪

▼問合せ 郷土資料館（☎23 5992）



ロケットの組み立てと打ち上げに貢献した足場

市長からの手紙

— 西脇を元気に!! —

123



西脇市長 片山 三

3月13日、日本で初めて民間単独で開発された小型ロケット「カイロス」の初号機が打ち上げられました。「民間初のロケット打ち上げ」に注目していましたが、それに併せてロケットの移動式射点組立足場が光洋機械産業さんの西脇工場（上比延町）で生産されたものと聞いて、さらに期待が高まりました。当日、皆さんのロケットファンや子どもたちが見守る中、打ち上げられたロケットは、残念ながら発射直後に空中で爆発してしまいました。開発した豊田正和社長は、「失敗とい

諦めなければ失敗ではない

う言葉は使いません。全ては今後の新しい挑戦の糧」とし、「2020年代半ばまでに年間20機の打ち上げの目標は変更しない」と発言されました。一方、起業家のイーロン・マスク氏が携わる大型宇宙船「スターシップ」は、翌日の14日、3度目の打ち上げでようやく宇宙空間へ到達することができました。マスク氏は、「次の打ち上げに対して多くのことを学んだ」と評価しています。失敗を「糧」とし、目標を変えない姿勢に力強さと未来への夢と希望を感じます。何度失敗しても夢を実現する「ガッツ」は、とても大切です。今回のロケット発射は、試行錯誤（trial and error）しながら失敗を恐れず頑張ることの大切さを学ぶ機会でもありました。「諦めなければ失敗ではない」。引き続きチャレンジされることに大いに期待します。

みんなでまちづくり—市民の皆さんのまちづくり活動—

誰もが生き生きと暮らす“芳田の里”へ

芳田自治協議会の取り組み

芳田自治協議会は「人口減少・少子高齢化」を芳田地区の最重要課題として考え、解決に向けてさまざまなことに取り組んでいます。

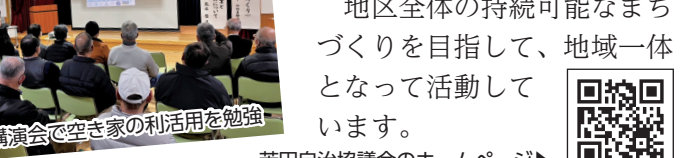
芳田地区は今年1月、地区全体が兵庫県の「空き家活用特区」に指定され、空き家の活用方法の可能性が広がりました。そこで、移住・定住促進として、「お試し移住」などに活用するために旧水尾町公民館を改修。また今後、空き家所有者と購入・賃貸希望者のマッチングなどを



改修を終えた旧公民館を内覧

目的に、空き家再生の法人を設立する予定です。

地区全体の持続可能なまちづくりを目指して、地域一体となって活動しています。



講演会で空き家の利活用を勉強 芳田自治協議会のホームページ▶



西脇の自然 601

ハハコグサ

きく科



春の七草（せり、なずな、ごぎょう、はこべら、ほとけのざ、すずな、すずしろ）のうち「ごぎょう（御形）」がハハコグサです。越年草で、七草を摘む冬季には、白い短毛に覆われた小さな株が田畑の隅にぽつぽつと見られます。4月ごろに茎の先端に黄色い花を付け、花弁がない小さな筒状花が10個以上集まって咲きます。越年草は秋に発芽して冬を越し、春に花を咲かせて、夏には枯れてしまいます。

ハハコグサや、よく似たチチコグサは在来種ですが、セイタカハハコグサやチチコグサモドキ、ウラジロチチコグサ、ウスベニチチコグサなど、外来種もあるようです。花の部分がきれいな黄色であれば、日本固有の「ハハコグサ」です。

【西脇市動植物生態調査研究グループ】